

●学校教育目標

心豊かでたくましく生き抜く人を育てる
 ~かけがえのない存在として、社会の一員となることを目指して~

●校訓

敬愛・自立・躍動

●めざす生徒像

- ・悩みや困りごとに向き合い、失敗を恐れず取り組み、自己有用感がもてる生徒
- ・主体的に取り組み、認め合い高め合いながら、学力を高める生徒
- ・地域に誇りを持ち、社会の一員としての生き方を追求する生徒



●教職員の姿勢

- ・生徒の良きモデルになる教職員
- ・生徒、保護者に寄り添い、多様性に学ぶ教職員
- ・生徒、保護者、地域の人に信頼される教職員
- ・自己を磨き、教育への熱意をもち、指導力の向上を図る教職員
- ・凡事を徹底し、組織の中で人間的に成長できる教職員



〈本年度の重点目標と具体的方策〉

1 たくましく生きる力の育成

(1)心通う生徒指導と教育相談の推進

- ・すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、すべての教職員がいじめに対する基本認識を確かにして、「いじめを許さない」「いじめを見逃さない」という考えを徹底し、「早期発見」「早期対応」に努める。
- ・共感的理解を大切に生徒とのふれあいを図ったり、教育相談にかかるアセスメントや相談体制を充実させたりしながら、生徒が発するSOSのサインを見逃さず、内面の悩みや不安の把握に努め、きめ細やかな支援を進める。

(2)個々の生徒の教育的ニーズや特性等を踏まえたきめ細やかな指導の充実

- ・特別に支援が必要な生徒に対して、「個別の支援計画」を適切に作成し、その計画に基づき、校内全体できめ細やかな支援を充実させることにより、すべての生徒が個性を発揮し、自信をもてるようにする。
- ・ユニバーサルデザインの視点を含めた授業づくり、環境づくりを目指す。

2 将来にわたって活用できる知性と教養の獲得

(1)生徒一人ひとりの学ぶ力の育成

- ・学ぶ力向上プランや「守山式授業ベーシックステップ」を踏まえ、主体性を育む探究的な授業を展開する。
- ・各教科に関わる教職員がお互いに指導法を磨き合い、生徒が「わかる」を実感できる授業づくりを目指す。

(2)体力の向上と食育の推進による基本的な生活習慣の確立

- ・保健体育科の授業や部活動を通して、生徒の体力向上に努める。
- ・安全・安心な学校給食を提供し、望ましい食習慣や基本的な生活習慣の習得に向け、学校教育活動全体で取り組む。

3 「気づき・考え・実行する」ための教育の推進

(1)一人ひとりが個性を発揮し、相互に尊重される教育の推進

- ・不合理なことに気づき、差別をなくそうとする実践的態度を育成するとともに、人権感覚を高める取組を通して違いを認め合い尊重する態度を培う。
- ・すべての教育活動を通して、生徒指導の3機能を生かした取組を実践することにより、誰もが安心していきいきと学べる集団づくりを進め、より良い生き方を考える心の教育を推進する。

(2)創意工夫を凝らした多様な集団活動や自治活動の展開

- ・各学級での班活動・係活動や、生徒自身が担う生徒会活動の活性化を図りながら、生徒の自己有用感や人間関係を築く力を高める。また、青少年赤十字(JRC)の態度目標「気づき・考え・実行する」の精神を大切にした活動を進める。

(3)豊かな心を育む道徳教育の推進

- ・自己の生き方を考え、自律的に判断・行動できる「道徳性」を養うために、道徳教育を教職員の校内研究のテーマに据え、学校全体で推進を図る。

4 地域に誇りを持ち、社会の一員として生き方を深める教育の推進

- ・地域人材等を招聘して話を聞いたり、課題(問題意識)をもとに関係者にインタビューをして学びをまとめて発表したりする等、多様な学習を織り交ぜ、総合的な学習の時間を核として教科横断的に体系的な学習活動を展開する。
- ・守山市の魅力やまちづくりに携わってきた人々の取組・思い等にふれながら、郷土を愛し、地域社会の一員としてまちづくりへの参画意識を高める。さらには、社会生活における人と人のかかわり方や生き方について考えを深める。
- ・守山にある豊かな地域資源(人・自然・琵琶湖)を活用し、総合的な学習の時間の学びを進める。「環境」に関しては、琵琶湖を題材として、持続可能な地球社会の在り方について考えを深め、SDGsの達成に向けた意識の高揚と実践的態度を育成する。
- ・生徒が社会的に自立して成長できるようキャリア教育を推進するとともに、防災教育による自助の力と共助の精神の育成、国際平和の平和と発展に寄与する姿勢を育成する。